

亀山・関テクノヒルズ開発事業
に係る事後調査報告書
(亀山工区供用後)

令和2年3月

住友商事株式会社

はじめに

本報告書は、亀山・関テクノヒルズ開発事業の実施にあたり、「(仮称) 亀山・関テクノレジダ
ンス・(仮称) 白川スカイヒルタウン開発計画に係る環境影響評価書 (平成5年10月)」(以下、
「評価書」という) 及び「亀山・関テクノヒルズ開発計画に係る環境影響評価調査検討報告書 (平
成7年3月、平成14年4月、平成14年9月、平成15年4月)」(以下、「検討報告書」という)
に記載した「環境保全のためのモニタリング計画」に基づき、施設供用後及び工事中に行うとし
た事後調査の結果 (令和元年度実施分) をとりまとめたものです。

これまでの事後調査の経過としては、平成14年度に亀山工区の工事に着手し、平成29年度に
同工区の造成工事が完了しました。この間、造成工事と並行して造成が完了した区域は順次供用
を開始しており、平成15年度より現在に至るまで施設供用後の事後調査を実施しています。その
結果、詳細は後述しますが、今年度に至るまで施設供用に伴う周辺環境への影響は確認されてい
ません。また、今後についても、水質等の公害関連項目は亀山市と企業との間で環境保全協定が
締結され、継続した監視が行われる予定となっています。

一方、これまで未着手であった関工区、太岡寺工区については、今年度、事業内容を修正し、
事業実施区域から除外することとしました。過年度の事後調査では、関工区の今後の着手可能性
を踏まえ、一時はオオタカの生息状況調査を実施していましたが、その他に保全対象種の移植等
の措置は講じておらず、事業に伴う環境の改変は生じていません。

以上のことから、今後、新たな環境影響の監視の必要性はないと考えられ、事後調査について
は今年度をもって終了することとします。

なお、本報告書には (仮称) 白川スカイヒルタウン開発計画に係る調査は含みません。

目 次

| | |
|--|----|
| 第1章 事業の概要..... | 1 |
| 1 事業者の氏名及び住所..... | 1 |
| 2 対象事業の名称、種類及び規模..... | 1 |
| 3 対象事業実施区域..... | 1 |
| 4 対象事業の進捗状況（令和2年3月末現在）..... | 1 |
| 第2章 本調査の位置付け..... | 5 |
| 第3章 亀山工区の供用後に係る事後調査..... | 9 |
| 1 水 質..... | 9 |
| 1-1 調査概要..... | 9 |
| 1-2 河川水..... | 9 |
| 1-3 雨水排水..... | 15 |
| 1-4 水道水源..... | 20 |
| 2 悪 臭..... | 25 |
| 2-1 調査概要..... | 25 |
| 2-2 調査年月日及び調査内容..... | 25 |
| 2-3 調査地点..... | 25 |
| 2-4 調査項目及び分析方法..... | 27 |
| 2-5 調査結果..... | 27 |
| 2-6 まとめ..... | 29 |
| 第4章 事後調査を担当した者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在..... | 30 |

資料編

第1章 事業の概要

1 事業者の氏名及び住所

事業者の名称：住友商事株式会社

代表者の氏名：不動産投資開発事業部長 青木 孝幸

所在地：東京都千代田区大手町二丁目3番2号

2 対象事業の名称、種類及び規模

対象事業の名称：亀山・関テクノヒルズ開発事業

対象事業の種類：工業団地の造成事業

対象事業の規模：事業面積 1,504,800m² (亀山工区のみ)

3 対象事業実施区域

三重県亀山市白木町、関町白木一色及び鷺山内他 (図1-1)

4 対象事業の進捗状況 (令和2年3月末現在)

本開発事業の進捗状況は以下のとおりであり、亀山工区内の区画については、図1-2に示したとおりです。

平成14年4月より、亀山工区の第1期造成工事(準備・防災工)に着手し、平成15年5月に第1期・第2期(e-1・2の2区画、f区画、g区画、j-1・2の2区画、k区画)の造成工事が完了しました。

平成16年7月からは、第3期(d-2~4の3区画)の工事に着手し、平成17年4月に造成工事が完了しました。

平成18年4月からは、第4期(i-1・2の2区画、n-1・2の2区画、o-1~3の3区画、p-1~4の4区画)の工事に着手し、平成19年4月に造成工事が完了しました。

平成28年3月からは第5期(a-1~4、b、c-1~3、d-1-1、2)の工事に着手し、平成30年3月に造成工事が完了し、亀山工区内の全ての造成工事が完了しました。

令和2年2月には、図1-3に示す当初計画に含まれていた関工区及び太岡寺工区における開発を取りやめ、本事業の実施区域を亀山工区のみに縮小することといたしました。

なお、亀山工区においては平成15年8月から順次、施設の供用が始まり、令和2年3月現在、亀山工区のうち、「d-2~4の3区画」、「e-1・2の2区画」、「f区画」、「g区画」、「i-1区画」、「1区画」、「n-1区画」、「n-2区画」、「o-3区画」、「p-1-1区画」、「p-1-2区画」、「p-4区画」において、進出企業により施設の供用が開始されています。

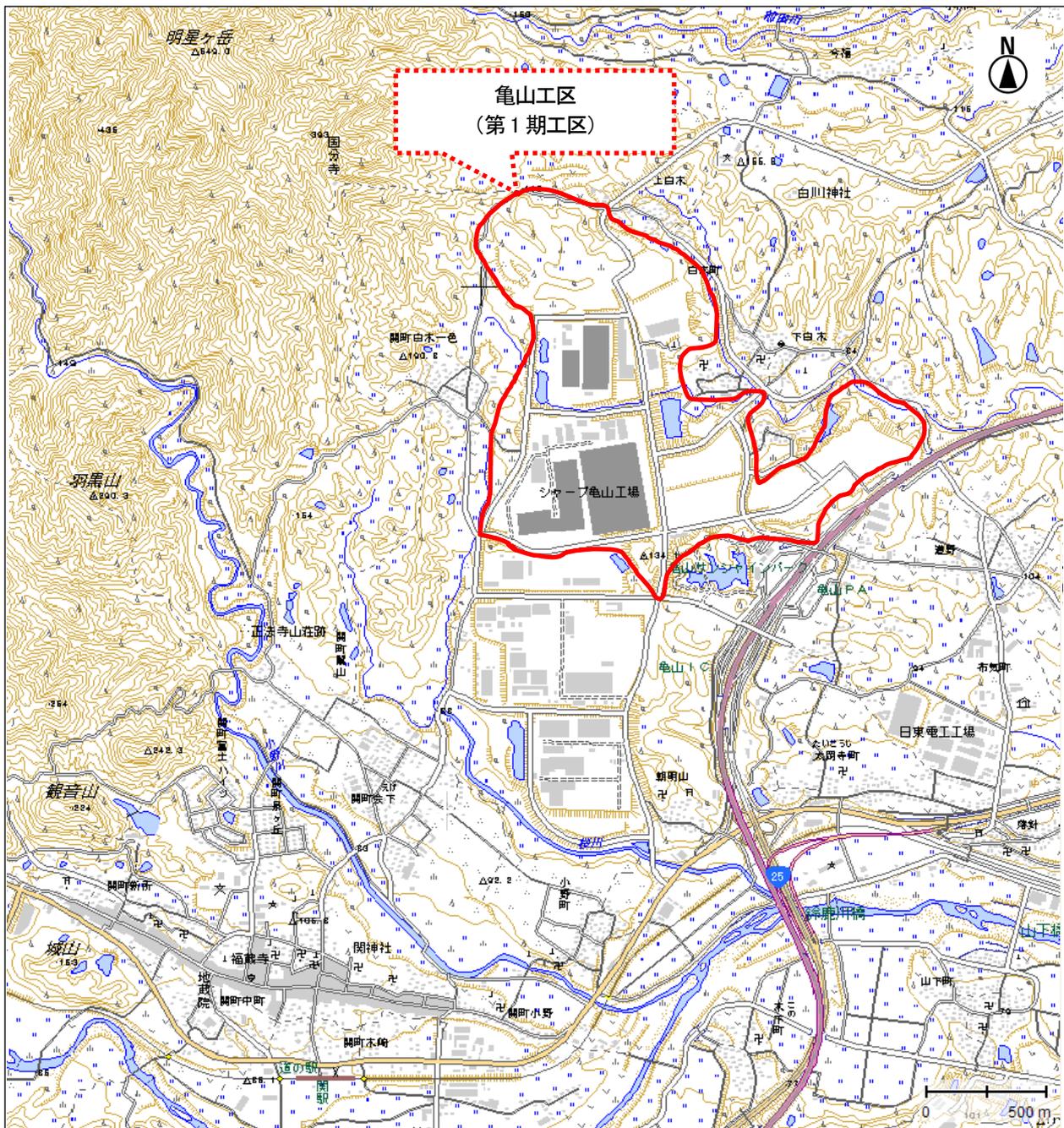


図 1-1 対象事業実施区域

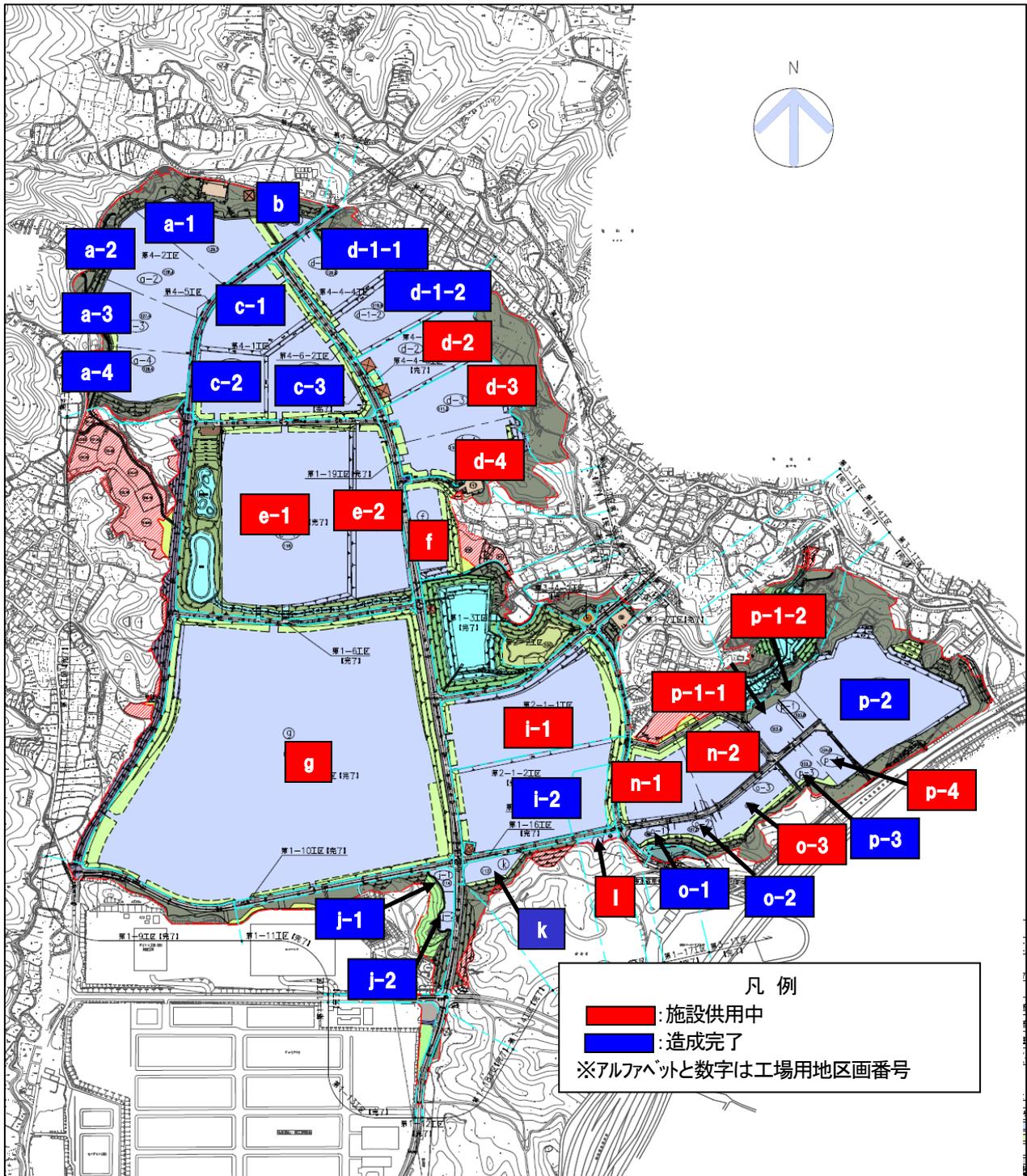


図1-2 対象事業進捗状況図（平成31年3月末現在）

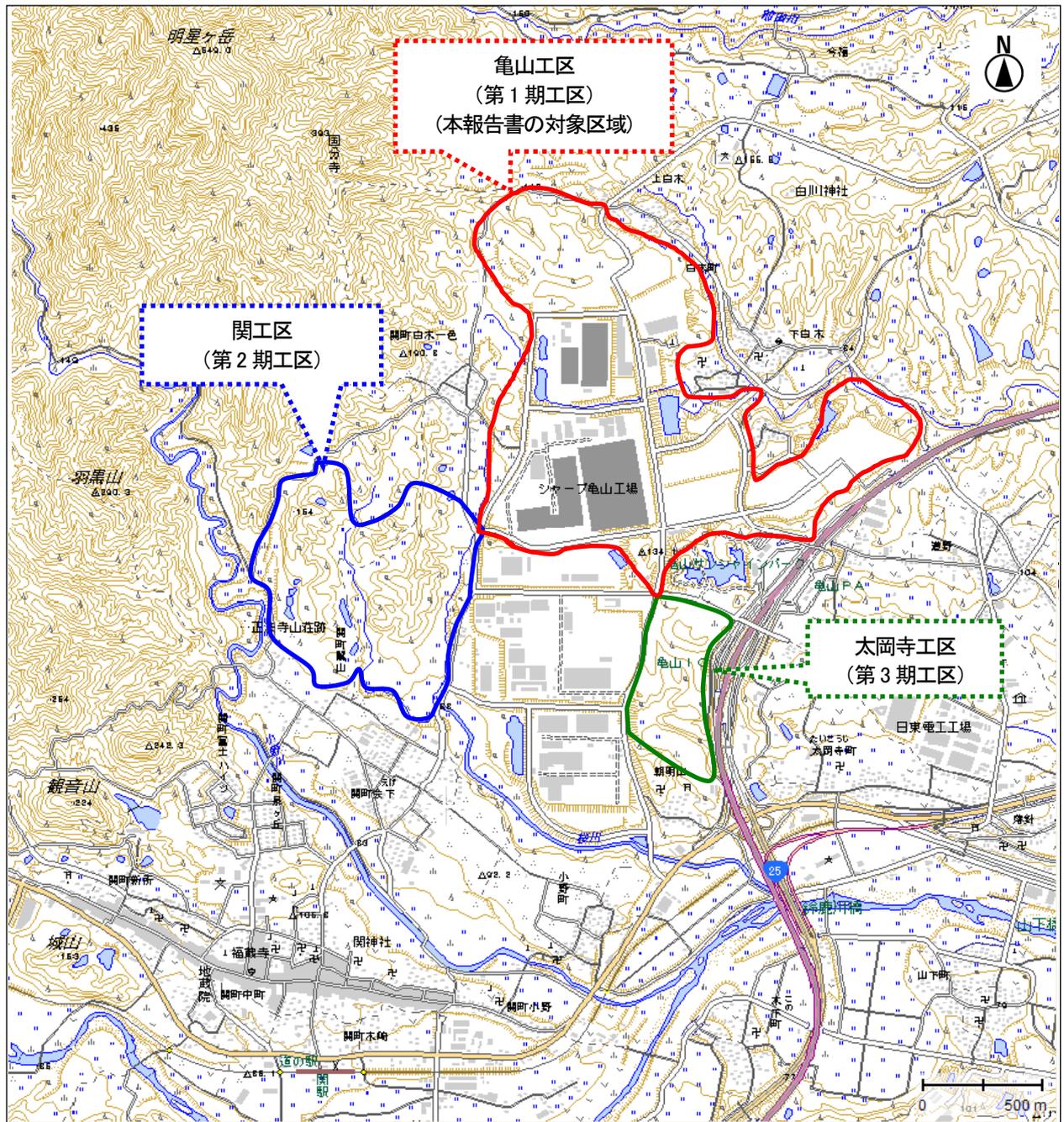


図 1-3 当初計画における対象事業実施区域

第2章 本調査の位置付け

本調査は、表2-1～4に示したとおり、亀山工区の第1期・第2期区域の施設供用後16年目及び第3期区域の供用後15年目、第4期区域の供用後12年目、第5期区域の供用2年目の調査です。

なお、平成23年に事後調査の最終年度となった「特筆すべき動物」のうち、オオタカの繁殖に係る調査については、平成24年度以降も関工区を対象区域として、平成28年度まで隔年で調査を実施してきましたが、関工区の造成工事が着手されていないため、調査は平成30年度に終了しました。

表2-1(1) 調査一覧（第1期、第2期区域分）

| | 工事中 | 工事中及び 一部施設供用 | 施設供用後 | | | | |
|------------------|------------|-----------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 平成14年 | 平成15年 | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 |
| | | | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 |
| 大気質（工事中） | ○ | | | | | | |
| 騒音・振動 （工事中） | ○ | | | | | | |
| 濁水（工事中） | ○ | | | | | | |
| 水質（供用後） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 悪臭（供用後） | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 特筆すべき植物 | ○ （移植） | ○ （1年後） | ○ （2年後） | ○ （3年後） | | ☆ （5年後） | — |
| 特筆すべき植物 移植地管理 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ☆ | — |
| 特筆すべき動物 | ○ （1年目） | ○ （2年目） | ○ （3年目） | | ○ （5年目） | | ○ （7年目） |
| 特筆すべき 水生生物 | ○ （1年目） | ○ （2年目） | ○ （3年目） | | ○ （5年目） | | ○ （7年目） |
| 動物相 | | ○ （1年目） | ○ （2年目） | ○ （3年目） | | ○ （5年目） | |

※：○は過年度分、☆は動植物調査の最終年度。

表 2-1(2) 調査一覧 (第 1 期、第 2 期区域分)

| | 施設供用後 | | | | | | |
|---------------------|-------------|---------|--------------|--------------|---------|---------|---------|
| | 平成 21 年 | 平成 22 年 | 平成 23 年 | 平成 24 年 | 平成 25 年 | 平成 26 年 | 平成 27 年 |
| | 6 年目 | 7 年目 | 8 年目 | 9 年目 | 10 年目 | 11 年目 | 12 年目 |
| 水質 (供用後) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 悪臭 (供用後) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 特筆すべき動物 | | | ☆ (10 年目) | — | — | — | — |
| 特筆すべき動物 (オオタカ繁殖) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 特筆すべき 水生生物 | | | ☆ (10 年目) | — | — | — | — |
| 動物相 | ○ (7 年目) | | | ☆ (10 年目) | — | — | — |

※：○は過年度分、☆は動植物調査の最終年度。

表 2-1(3) 調査一覧 (第 1 期～第 5 期区域分)

| | 施設供用後 | | | |
|---------------------|--------------|---------|---------|-------|
| | 平成 28 年 | 平成 29 年 | 平成 30 年 | 令和元年 |
| | 13 年目 | 14 年目 | 15 年目 | 16 年目 |
| 水質 (供用後) | ○ | ○ | ○ | ● |
| 悪臭 (供用後) | ○ | ○ | ○ | ● |
| 特筆すべき動物 (オオタカ繁殖) | ☆ (15 年目) | — | — | — |

※：○は過年度分、●は今回報告分、☆は動植物調査の最終年度。

表 2-2(1) 調査一覧 (第 3 期区域分)

| | 工事中 | 施設供用後 | | | | | |
|----------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 平成 16 年 | 平成 17 年 | 平成 18 年 | 平成 19 年 | 平成 20 年 | 平成 21 年 | 平成 22 年 |
| | | 1 年目 | 2 年目 | 3 年目 | 4 年目 | 5 年目 | 6 年目 |
| 大気質 (工事中) | ○ | | | | | | |
| 騒音 (工事中) | ○ | | | | | | |
| 濁水 (工事中) | ○ | | | | | | |
| 特筆すべき植物 | △ (1 年後) | △ (2 年後) | | △ (3 年後) | | ☆ (5 年後) | — |
| 特筆すべき植物 移植地管理 | △ | △ | △ | △ | ○ | ☆ | — |
| 特筆すべき動物 | △ (1 年目) | ○ (2 年目) | △ (3 年目) | | △ (5 年目) | | ○ (7 年目) |
| 特筆すべき動物 (モリアオガエル) | ○ (移植) | ○ (1 年後) | △ (2 年後) | ○ (3 年後) | | ○ (5 年後) | |
| 特筆すべき 水生生物 | △ (1 年目) | ○ (2 年目) | △ (3 年目) | | △ (5 年目) | | ○ (7 年目) |
| 動物相 | | △ (1 年目) | | △ (3 年目) | | △ (5 年目) | |

※：○は過年度分、△は第 1 期、第 2 期区域の調査で実施、☆は動植物調査の最終年度。

注：「水質 (供用後)」及び「悪臭 (供用後)」については、第 1 期、第 2 期区域分の調査を参照。

表 2-2(2) 調査一覧 (第 3 期区域分)

| | 施設供用後 | | | | | | |
|----------------------|-------------|---------|--------------|--------------|---------|---------|---------------|
| | 平成 23 年 | 平成 24 年 | 平成 25 年 | 平成 26 年 | 平成 27 年 | 平成 28 年 | 平成 29 年 以降 |
| | 7 年目 | 8 年目 | 9 年目 | 10 年目 | 11 年目 | 12 年目 | 13 年目～ |
| 特筆すべき動物 | | | ☆ (10 年目) | | | | |
| 特筆すべき動物 (モリアオガエル) | ○ (7 年後) | | | ☆ (10 年後) | | | |
| 特筆すべき 水生生物 | | | ☆ (10 年目) | | | | |
| 動物相 | ○ (7 年目) | | | ☆ (10 年目) | | | |

※：○は過年度分、☆は動植物調査の最終年度。

注：「水質 (供用後)」及び「悪臭 (供用後)」については、第 1 期、第 2 期区域分の調査を参照。

表 2-3(1) 調査一覧 (第 4 期区域分)

| | 工事中 | | 施設供用後 | | | | |
|------------------|-----------|-------------|-------------|-------------|---------|-------------|---------|
| | 平成 18 年 | 平成 19 年 | 平成 20 年 | 平成 21 年 | 平成 22 年 | 平成 23 年 | 平成 24 年 |
| | | | 1 年目 | 2 年目 | 3 年目 | 4 年目 | 5 年目 |
| 大気質 (工事中) | ○ | | | | | | |
| 騒音 (工事中) | ○ | | | | | | |
| 濁水 (工事中) | ○ | ○ | | | | | |
| 特筆すべき植物 | ○ (移植) | △ (1 年後) | ○ (2 年後) | △ (3 年後) | | ☆ (5 年後) | — |
| 特筆すべき植物 移植地管理 | △ | △ | △ | △ | ○ | ☆ | — |
| 動物相 | | | ○ | | ○ | | △ |

※：○は過年度分、△は第 1 期、第 2 期区域又は第 3 期区域の調査で実施、☆は動植物調査の最終年度。

注：「水質 (供用後)」及び「悪臭 (供用後)」については、第 1 期、第 2 期区域分の調査を参照。

表 2-3(2) 調査一覧 (第 4 期区域分)

| | 施設供用後 | | | | | | |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| | 平成 25 年 | 平成 26 年 | 平成 27 年 | 平成 28 年 | 平成 29 年 | 平成 30 年 | 令和元年 |
| | 6 年目 | 7 年目 | 8 年目 | 9 年目 | 10 年目 | 11 年目 | 12 年目 |
| 動物相 | | | △ | | ☆ | | |

※：△は第 1 期、第 2 期区域又は第 3 期区域の調査で実施、☆は動物相調査の最終年度。

注：「水質 (供用後)」及び「悪臭 (供用後)」については、第 1 期、第 2 期区域分の調査を参照。

表 2-4 調査一覧 (第 5 期区域分)

| | 工事中 | | 施設供用後 |
|-----------|---------|---------|---------------|
| | 平成 28 年 | 平成 29 年 | 平成 30 年 以降 |
| 大気質 (工事中) | ○ | | |
| 騒音 (工事中) | ○ | | |
| 濁水 (工事中) | ○ | ○ | |

※：○は過年度分、●は今回報告分。

第3章 亀山工区の供用後に係る事後調査

1 水質

1-1 調査概要

亀山工区は全ての工事が終了し、供用開始となっていることから、施設からの排水が放流先河川である鈴鹿川及び水道水源に与える影響を把握するため、調査を実施しました。

また、回復緑地への施肥により、肥料に含まれる窒素及びリンが降雨により流出する恐れがあるため、調整池出口において雨水排水調査を実施しました。

1-2 河川水

1-2-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 3-1-1 に示したとおりです。

表 3-1-1 調査年月日及び調査内容

| 調査年月日 | 調査内容 |
|---------------|--------|
| 令和元年 12 月 6 日 | 生活環境項目 |

1-2-2 調査地点

河川の水質調査は、図 3-1-1 に示した地点のうち、鈴鹿川の現況調査地点 1 地点としました。

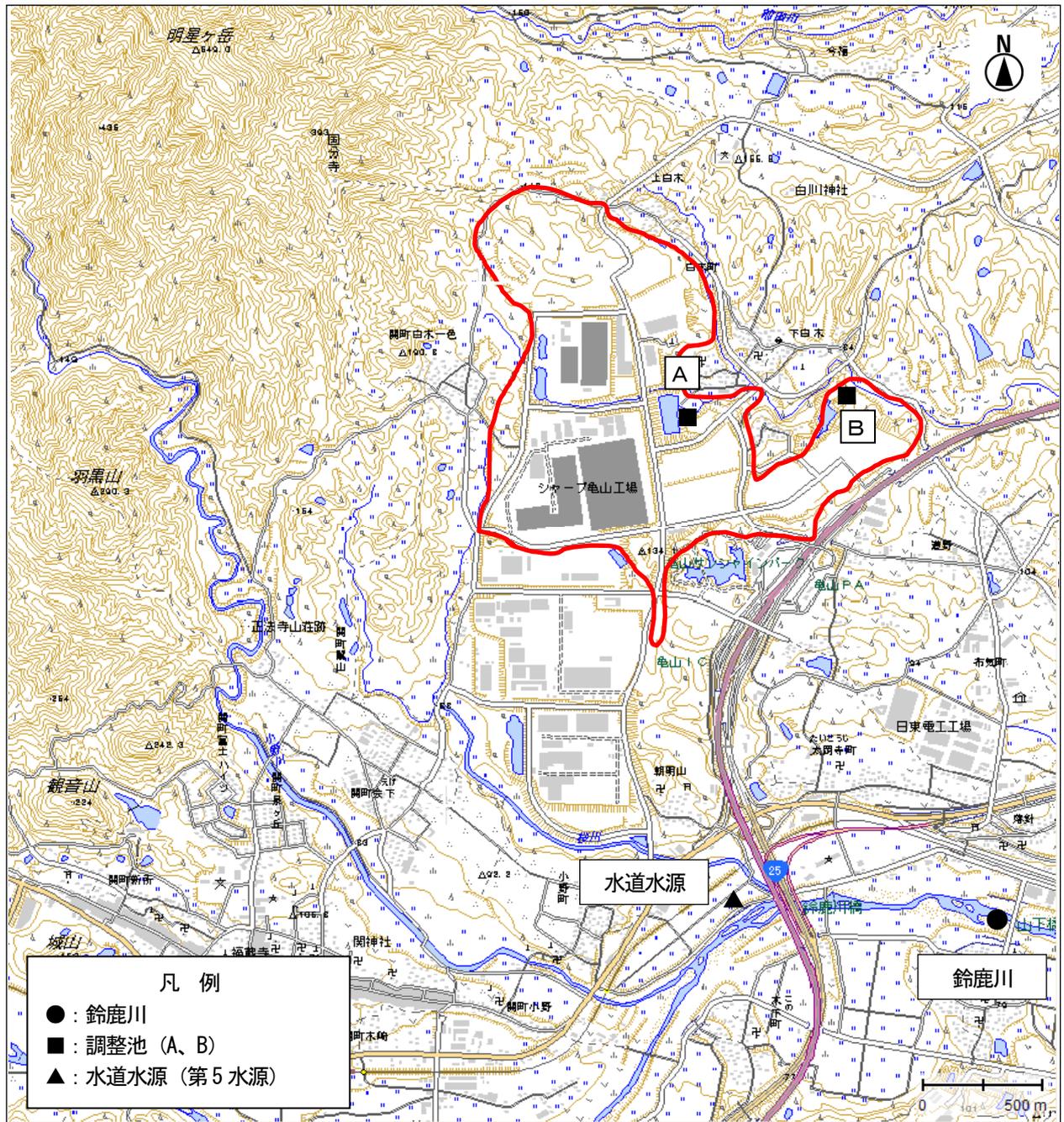


図3-1-1 水質調査地点

1-2-3 調査項目及び分析方法

調査項目及び分析方法は、表 3-1-2 に示したとおりです。

表 3-1-2 調査項目及び分析方法

| 調査項目 | | 分析方法 |
|--------|------------------|-----------------------|
| 生活環境項目 | 水素イオン濃度 (pH) | JIS K0102 12. 1 |
| | 生物化学的酸素要求量 (BOD) | JIS K0102 21 及び 32. 3 |
| | 化学的酸素要求量 (COD) | JIS K0102 17 |
| | 浮遊物質 (SS) | 昭和 46 年環告 59 号付表 9 |
| | 溶存酸素 (DO) | JIS K0102 32. 1 |
| | 大腸菌群数 (MPN) | 昭和 46 年環告 59 号別表 2 |
| | n-ヘキサン抽出物質 (油分等) | 昭和 46 年環告 59 号付表 14 |
| | 全窒素 (T-N) | JIS K0102 45. 6 |
| | 全磷 (T-P) | JIS K0102 46. 3. 4 |

1-2-4 調査結果

放流先河川である鈴鹿川の水質調査結果は表 3-1-3 に示したとおりです。

鈴鹿川（鈴国橋より上流）には環境基準の AA 類型が指定されており、今回の結果を環境基準と比較すると、全ての調査項目において環境基準を満足していました。

表 3-1-3 水質調査結果

| 項目 | 単位 | 環境基準* | 令和元年 |
|------------|-----------|---------|-----------------|
| | | | 12月6日 |
| pH | — | 6.5～8.5 | 7.9 |
| BOD | mg-O/L | 1以下 | 0.5 |
| COD | mg-O/L | — | 1.4 |
| SS | mg/L | 25以下 | 1.4 |
| DO | mg-O/L | 7.5以上 | 12 |
| 大腸菌群数(MPN) | MPN/100mL | 50以下 | 14 |
| n-ヘキサン抽出物質 | mg/L | — | 検出せず (0.5未満) |
| T-N | mg-N/L | — | 0.58 |
| T-P | mg-P/L | — | 0.010 |

※：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日、環境庁告示第59号）

1-2-5 まとめ

施設からの排水が放流先河川である鈴鹿川に与える影響を把握するため、これまでに行った鈴鹿川の調査結果のうち、評価書で予測が行われた BOD、COD、全窒素、全燐の経年変化を整理しました。なお、経年変化及び予測結果の平均値との比較は、図 3-1-2～5 に示すとおりです。

その結果、各年度における BOD の平均値は 0.5～1.4mg-O/L、COD の平均値は 1.1～2.1mg-O/L、全窒素の平均値は 0.58～1.5mg-N/L、全燐の平均値は 0.010～0.032mg-P/L でした。

BOD については、一部で予測結果の平均値である 1.6mg-O/L を超過することがありましたが、事後調査の平均値は全年度で予測結果の平均値を下回りました。また、これまでの事後調査結果の平均値を現況時の平均値である 1.4mg-O/L と比較すると、同程度か下回る結果となりました。COD については、一部で予測結果の平均値である 2.1mg-O/L を超過することがありましたが、事後調査の平均値は平成 15 年度で予測結果の平均値と同値になったものの、その他の年度では下回りました。また、これまでの事後調査結果の平均値を現況時の平均値である 1.4mg-O/L と比較すると、概ね同程度の値でした。全窒素と全燐については、全年度の事後調査結果の平均値が予測結果の平均値（全窒素：2.0mg-O/L、全燐：0.17mg-O/L）を下回り、現況時の平均値（全窒素：1.7mg-O/L、全燐：0.14mg-O/L）と比較しても全年度で下回りました。

以上のことから、事業実施に伴い、施設からの排水による放流先河川である鈴鹿川への影響はみられませんでした。

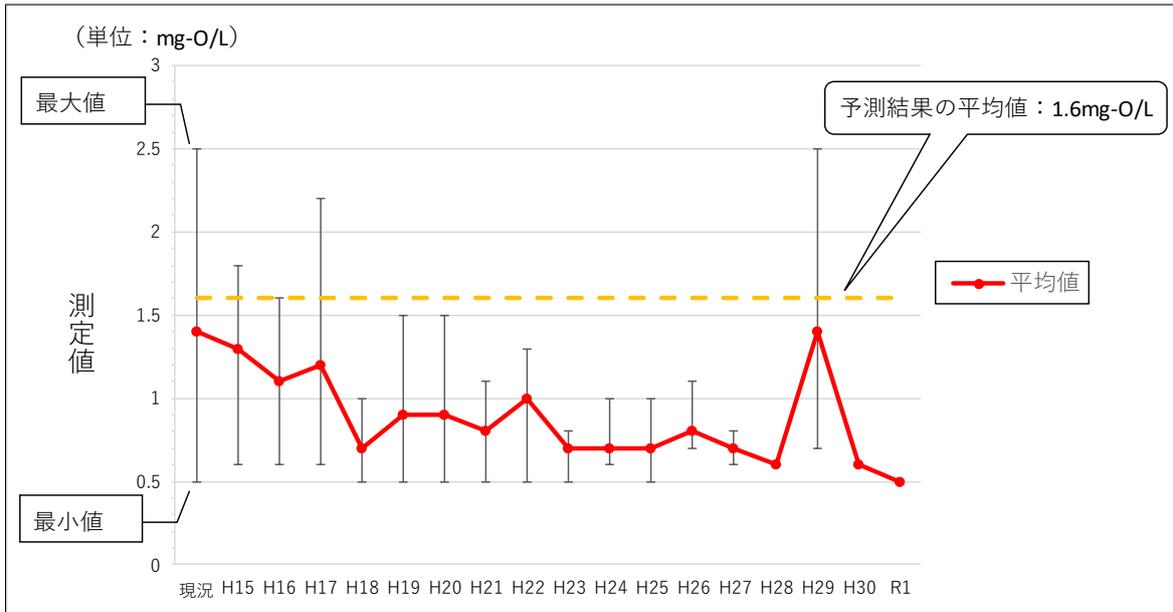


図 3-1-2 BOD の経年変化 (鈴鹿川)

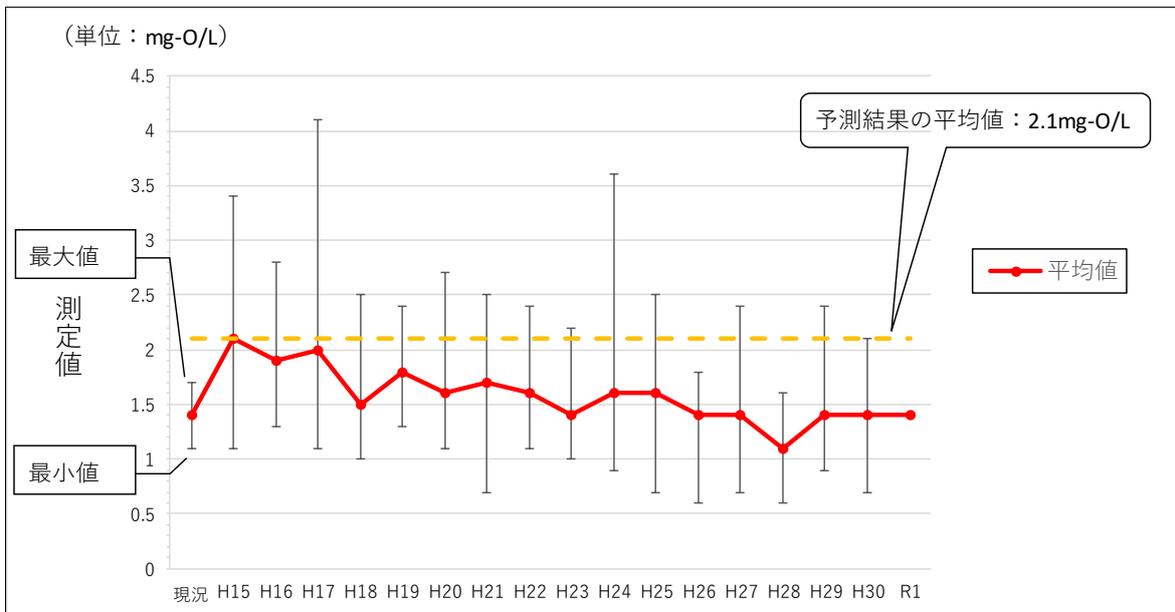
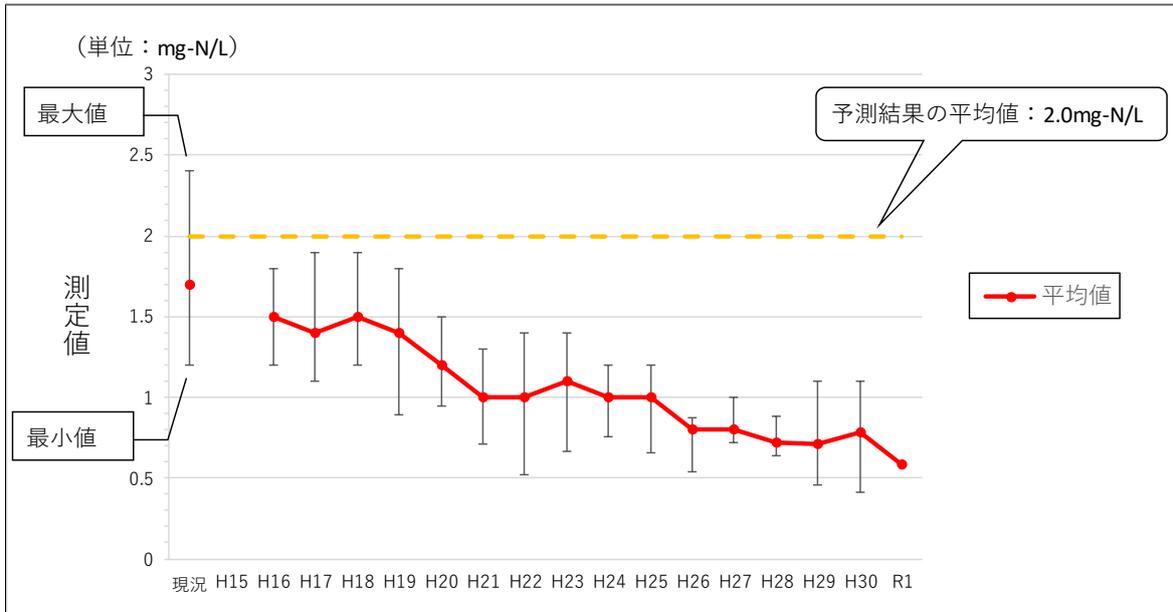
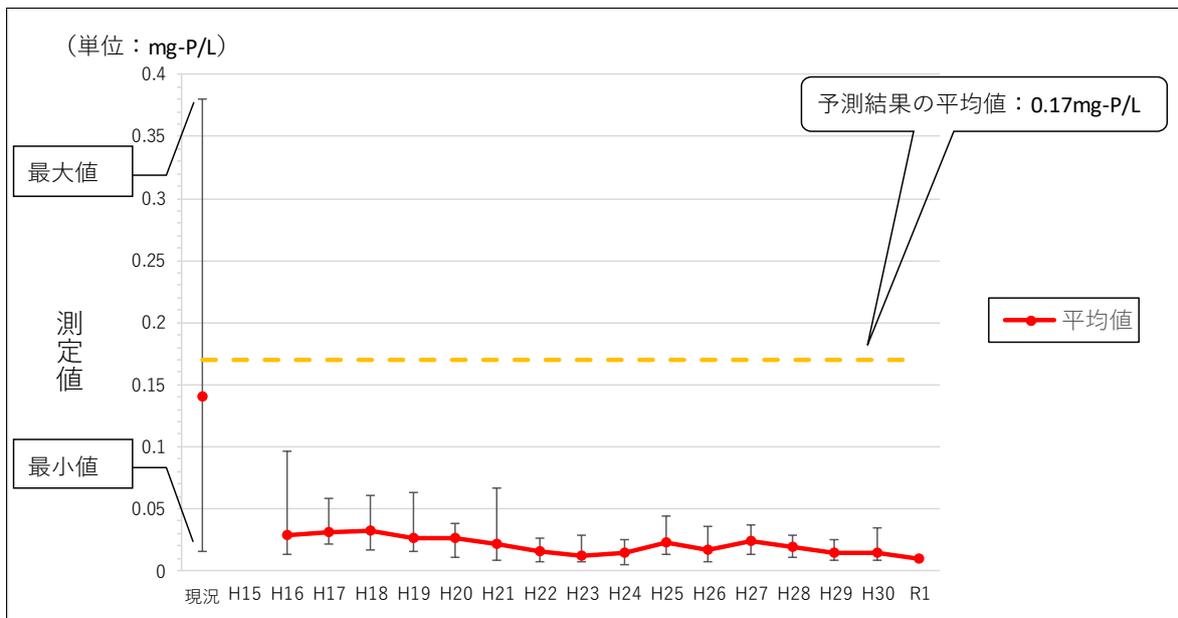


図 3-1-3 COD の経年変化 (鈴鹿川)



注 平成15年度は事後調査を実施していない

図3-1-4 全窒素の経年変化（鈴鹿川）



注 平成15年度は事後調査を実施していない

図3-1-5 全磷の経年変化（鈴鹿川）

1-3 雨水排水

1-3-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 3-1-4 に示したとおりです。

表 3-1-4 調査年月日及び調査内容

| 調査年月日 | 調査内容 |
|------------|------|
| 令和2年 1月 8日 | 雨水排水 |

1-3-2 調査地点

調査地点は前掲の図 3-1-1 に示した地点のうち、2ヶ所の調整池（A、B）出口としました。

1-3-3 調査項目及び分析方法

調査項目及び分析方法は、表 3-1-5 に示したとおりです。

表 3-1-5 調査項目及び分析方法

| 調査項目 | 分析方法 |
|------------------|----------------------|
| 水素イオン濃度 (pH) | JIS K0102 12.1 |
| 生物化学的酸素要求量 (BOD) | JIS K0102 21 及び 32.3 |
| 全窒素 (T-N) | JIS K0102 45.6 |
| 全リン (T-P) | JIS K0102 46.3.4 |

1-3-4 調査結果

調査の結果は表 3-1-6 に示したとおりであり、調整池 A では、pH は 7.6、BOD は 1.9mg-O/L、全窒素は 0.92mg-N/L、全リンは 0.037mg-P/L でした。

調整池 B では、pH は 7.8、BOD は 1.6mg-O/L、全窒素は 0.73mg-N/L、全リンは 0.042mg-P/L でした。

また、参考として昨年度の調査結果を表 3-1-7 に示しました。今年度の調査結果は、いずれの項目も昨年度の調査結果と比較して同程度の値でした。

表 3-1-6 調整池出口における調査結果

| 項目 | 単位 | 調整池 A | 調整池 B |
|-----|--------|-------|-------|
| | | 1月8日 | 1月8日 |
| pH | — | 7.6 | 7.8 |
| BOD | mg-O/L | 1.9 | 1.6 |
| T-N | mg-N/L | 0.92 | 0.73 |
| T-P | mg-P/L | 0.037 | 0.042 |
| 水温 | ℃ | 8.5 | 9.5 |
| 気温 | ℃ | 11.7 | 12.0 |

表 3-1-7 調整池出口における調査結果 (参考：平成 30 年度)

| 項目 | 単位 | 調整池 A | | | | 調整池 B | | | |
|-----|--------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
| | | 8月21日 | 12月12日 | 2月1日 | 3月1日 | 8月21日 | 12月12日 | 2月1日 | 3月1日 |
| pH | — | 7.4 | 7.5 | 7.4 | 7.3 | 8.6 | 7.7 | 7.8 | 7.5 |
| BOD | mg-O/L | 2.5 | 1.5 | 2.5 | 2.6 | 3.3 | 1.8 | 1.8 | 2.0 |
| T-N | mg-N/L | 0.68 | 0.73 | 0.92 | 0.87 | 0.56 | 0.72 | 0.75 | 0.77 |
| T-P | mg-P/L | 0.085 | 0.025 | 0.043 | 0.050 | 0.055 | 0.024 | 0.025 | 0.033 |
| 水温 | ℃ | 27.0 | 11.0 | 6.0 | 10.6 | 27.5 | 10.7 | 6.0 | 10.0 |
| 気温 | ℃ | 29.0 | 10.0 | 8.0 | 13.0 | 28.0 | 10.0 | 8.0 | 13.0 |

1-3-5 まとめ

回復緑地への施肥による影響を把握する目的で、これまでに行った雨水排水の調査結果のうち、全窒素及び全燐の経年変化を整理しました。また、評価書では両調整池からの雨水排水による影響の予測を実施していないことから、放流先河川である椋川における現況値との比較を行いました。なお、経年変化及び現況値との比較は、図 3-1-6～9 に示すとおりです。

その結果、各年度における全窒素の平均値は、調整池 A では 0.45～1.2mg-N/L、調整池 B では 0.60～1.1mg-N/L、全燐の平均値は、調整池 A では 0.020～0.20mg-P/L、調整池 B では 0.027～0.10mg-P/L でした。全窒素については、両調整池ともに椋川における現況値の平均値である 2.3mg-N/L を上回ることはありませんでした。なお、全燐については、現況調査を実施していないため比較を実施することは難しいものの、事後調査期間を通じて、概ね同程度の値で推移していました。

以上のことから、回復緑地へ施肥を実施することにより、肥料に含まれる窒素及び燐が各調整池から排出される雨水排水へ影響を及ぼす状況はみられませんでした。

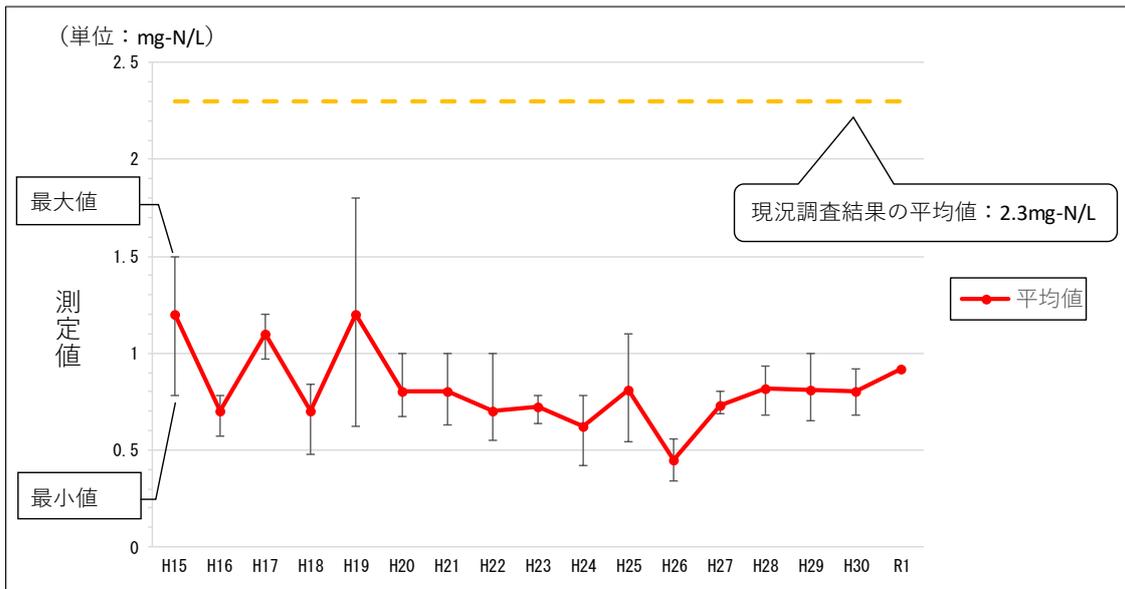


図 3-1-6 全窒素の経年変化 (調整池 A)

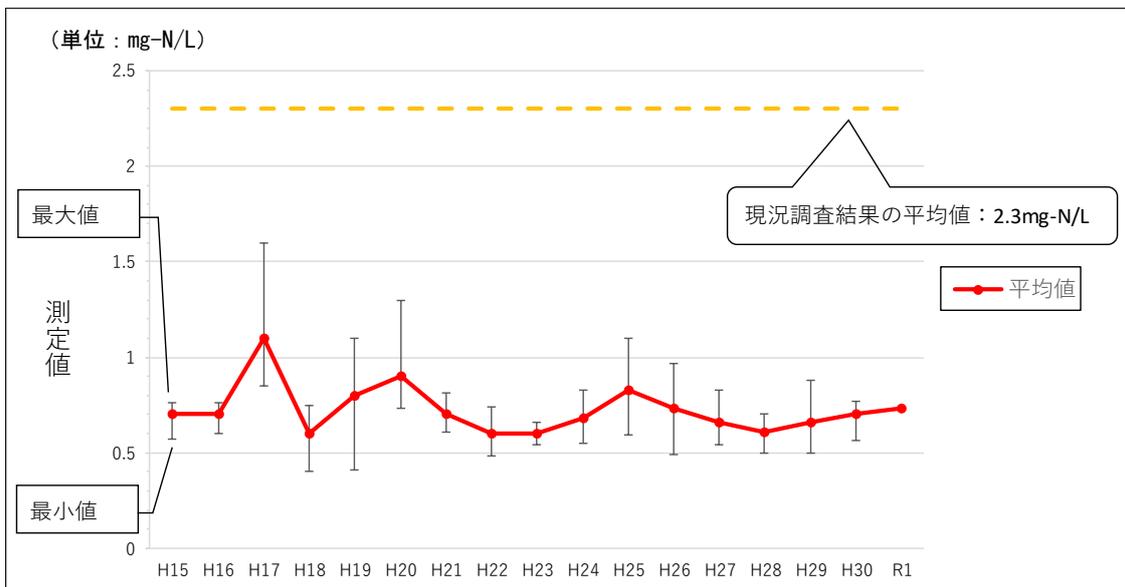
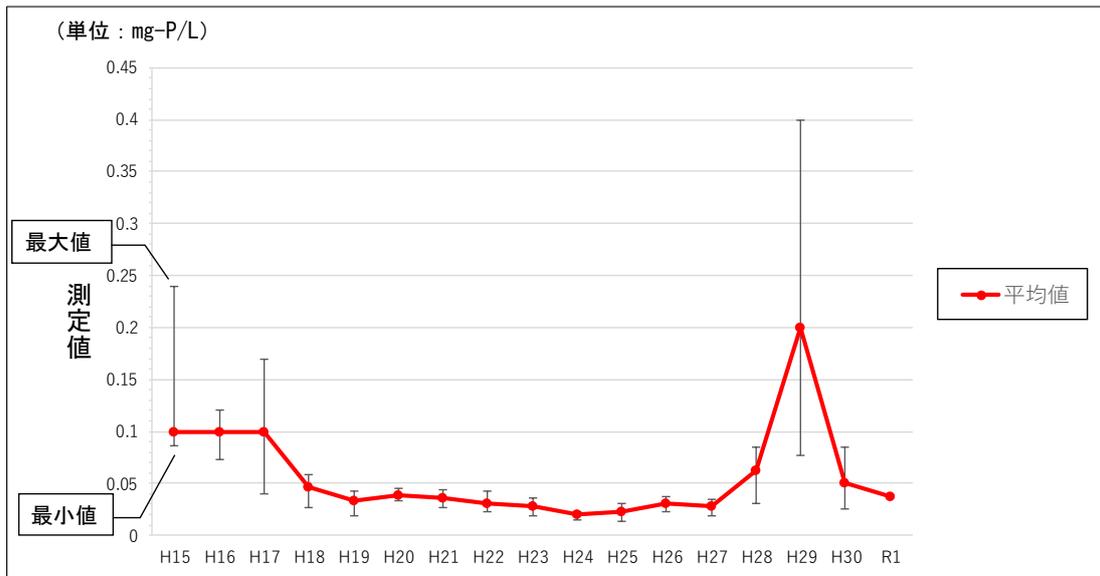
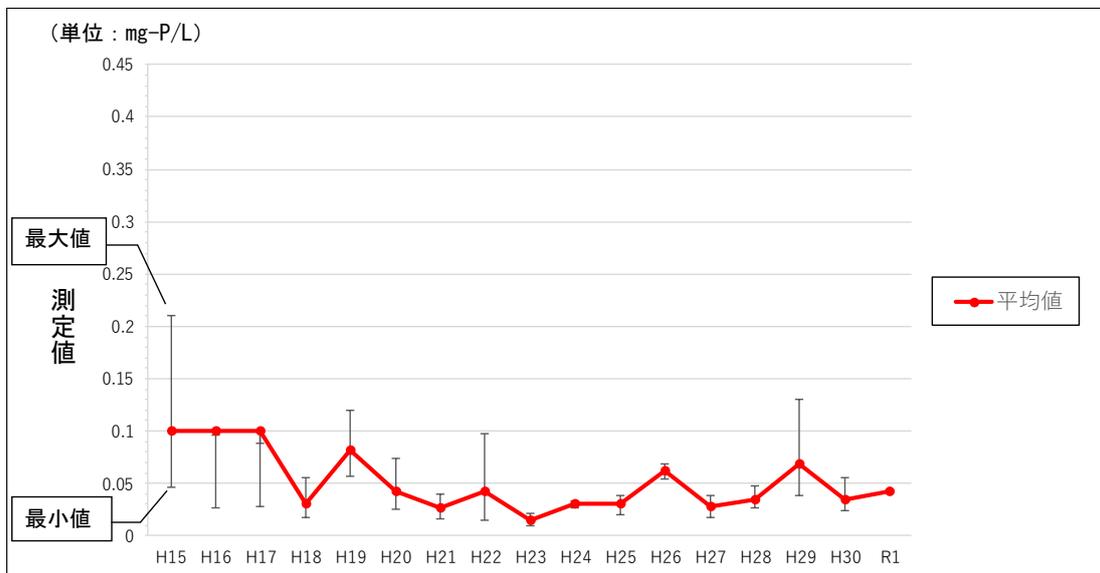


図 3-1-7 全窒素の経年変化 (調整池 B)



注 全燐は現況調査を実施していない

図 3-1-8 全燐の経年変化 (調整池 A)



注 全燐は現況調査を実施していない

図 3-1-9 全燐の経年変化 (調整池 B)

1-4 水道水源

1-4-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 3-1-8 に示したとおりです。

表 3-1-8 調査年月日及び調査内容

| 調査年月日 | 調査内容 |
|------------|------------------------|
| 令和2年 3月 6日 | 水道水一般検査項目 水道水精密検査項目 |

1-4-2 調査地点

調査地点は前掲の図 3-1-1 に示した地点のうち、第5水源の1ヶ所としました。

1-4-3 調査項目及び分析方法

調査項目及び分析方法は、表 3-1-9 に示したとおりです。

表 3-1-9 調査項目及び分析方法

| 調査項目 | | 分析方法 |
|---------------|----------------------------------|------------------------------|
| 水道水一般検査項目 | 一般細菌 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 1 |
| | 大腸菌 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 2 |
| | 硝酸態及び亜硝酸態窒素 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 13 |
| | 塩化物イオン | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 13 |
| | 有機物(TOC) | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 30 |
| | pH 値 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 31 |
| | 味 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 33 |
| | 臭気 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 34 |
| | 色度 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 36 |
| | 濁度 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 41 |
| | 残留塩素 | 平成 15 年厚生労働省告示第 318 号 別表第 1 |
| 水道水精密検査項目 | カドミウム | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6 |
| | 水銀 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 7 |
| | セレン | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6 |
| | 鉛 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6 |
| | ヒ素 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6 |
| | 六価クロム | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6 |
| | 亜硝酸態窒素 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 13 |
| | シアン | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 12 |
| | フッ素 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 13 |
| | ホウ素 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6 |
| | 四塩化炭素 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 15 |
| | 1,4-ジオキサン | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 14 |
| | シス及びトランス-1,2-ジクロロエチレン | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 15 |
| | ジクロロメタン | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 15 |
| | テトラクロロエチレン | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 15 |
| | トリクロロエチレン | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 15 |
| | ベンゼン | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 15 |
| | 亜鉛 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6 |
| | アルミニウム | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6 |
| | 鉄 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6 |
| | 銅 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6 |
| | ナトリウム | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6 |
| | マンガン | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6 |
| | カルシウム、マグネシウム等(硬度) | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 20 |
| | 蒸発残留物 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 23 |
| | 陰イオン界面活性剤 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 24 |
| | ジェオスミン | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 26 |
| 2-メチルイソボルネオール | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 26 | |
| 非イオン界面活性剤 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 28 の 2 | |
| フェノール類 | 平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 29 | |

1-4-4 調査結果

調査の結果は表 3-1-10 に示したとおりであり、全ての項目で水質基準を満足していました。

また、精密検査項目では、ほう素、ナトリウム、カルシウム・マグネシウム等(硬度)、蒸発残留物が検出されましたが、いずれもその値は小さく、基準を満足していました。

表 3-1-10 水道水源調査結果

| 項目 | 単位 | 基準値※ | 令和2年 | | |
|-----------------------|---------------|--------------|---------------|-----------|----------|
| | | | 3月6日 | | |
| 水道水一般検査項目 | 一般細菌 | 個/mL | 100 以下 | 0 | |
| | 大腸菌 | — | 検出されないこと | 陰性 | |
| | 硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素 | mg/L | 10 以下 | 0.8 | |
| | 塩化物イオン | mg/L | 200 以下 | 10.2 | |
| | 有機物 (TOC) | mg/L | 3 以下 | <0.3 | |
| | pH値 | — | 5.8 以上 8.6 以下 | 6.4 | |
| | 味 | — | 異常でないこと | 異常なし | |
| | 臭気 | — | 異常でないこと | 異常なし | |
| | 色度 | 度 | 5 以下 | <0.5 | |
| | 濁度 | 度 | 2 度以下 | <0.05 | |
| | 残留塩素 | mg/L | | 0.04 | |
| | 水道水精密検査項目 | カドミウム及びその化合物 | mg/L | 0.003 以下 | <0.0003 |
| | | 水銀及びその化合物 | mg/L | 0.0005 以下 | <0.00005 |
| セレン及びその化合物 | | mg/L | 0.01 以下 | <0.001 | |
| 鉛及びその化合物 | | mg/L | 0.01 以下 | <0.001 | |
| ヒ素及びその化合物 | | mg/L | 0.01 以下 | <0.001 | |
| 六価クロム化合物 | | mg/L | 0.05 以下 | <0.001 | |
| 亜硝酸態窒素 | | mg/L | 0.04 以下 | <0.004 | |
| シアン化物イオン及び塩化シアン | | mg/L | 0.01 以下 | <0.001 | |
| フッ素及びその化合物 | | mg/L | 0.8 以下 | <0.08 | |
| ホウ素及びその化合物 | | mg/L | 1.0 以下 | 0.02 | |
| 四塩化炭素 | | mg/L | 0.002 以下 | <0.0002 | |
| 1,4-ジオキサン | | mg/L | 0.05 以下 | <0.005 | |
| シス及びトランス-1,2-ジクロロエチレン | | mg/L | 0.04 以下 | <0.001 | |
| ジクロロメタン | | mg/L | 0.02 以下 | <0.001 | |
| テトラクロロエチレン | | mg/L | 0.01 以下 | <0.001 | |
| トリクロロエチレン | | mg/L | 0.01 以下 | <0.001 | |
| ベンゼン | | mg/L | 0.01 以下 | <0.001 | |
| 亜鉛及びその化合物 | | mg/L | 1.0 以下 | <0.005 | |
| アルミニウム及びその化合物 | | mg/L | 0.2 以下 | <0.02 | |
| 鉄及びその化合物 | | mg/L | 0.3 以下 | <0.03 | |
| 銅及びその化合物 | | mg/L | 1.0 以下 | <0.01 | |
| ナトリウム及びその化合物 | | mg/L | 200 以下 | 9.2 | |
| マンガン及びその化合物 | | mg/L | 0.05 以下 | <0.005 | |
| カルシウム、マグネシウム等 (硬度) | | mg/L | 300 以下 | 38 | |
| 蒸発残留物 | | mg/L | 500 以下 | 92 | |
| 陰イオン界面活性剤 | | mg/L | 0.2 以下 | <0.02 | |
| ジオスミン | | mg/L | 0.00001 以下 | <0.000001 | |
| 2-メチルイソボルネオール | mg/L | 0.00001 以下 | <0.000001 | | |
| 非イオン界面活性剤 | mg/L | 0.02 以下 | <0.002 | | |
| フェノール類 | mg/L | 0.005 以下 | <0.0005 | | |

※：「水質基準に関する省令」(平成 15 年 5 月 30 日、厚労令 101)

1-4-5 まとめ

施設からの排水が水道水源に与える影響を把握するため、平成 22 年度から実施されている第 5 水源での調査結果の経年変化を整理しました。なお、経年変化は、表 3-1-11, 12 に示すとおりです。

その結果、全年度を通して全ての項目の平均値が概ね同程度の値となり、全ての調査結果が基準値を下回りました。

以上のことから、事業実施に伴う施設からの排水による水道水源への影響はみられませんでした。

表 3-1-11 水道水一般検査項目の経年変化（第 5 水源）

| 水道水一般検査項目 | 単位 | 基準値※ | | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | |
|---------------|------|----------------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| 一般細菌 | 個/mL | 100以下 | 平均値 | 1.4 | 0 | 0.3 | 0.9 | 0 | 0.3 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | 最大値 | 11 | 0 | 3.0 | 6.0 | 0 | 3.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| | | | 最小値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 大腸菌 | — | 検出されないこと | | 陰性 | |
| 硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素 | mg/L | 10以下 | 平均値 | 1.6 | 1.7 | 1.3 | 1.2 | 1.3 | 1.1 | 1.0 | 1.1 | 1.0 | 0.8 | |
| | | | 最大値 | 2.0 | 2.3 | 1.7 | 1.6 | 1.4 | 1.4 | 1.2 | 1.4 | 1.2 | — | |
| | | | 最小値 | 1.3 | 1.4 | 1.1 | 0.9 | 1.1 | 0.8 | 0.8 | 0.8 | 0.8 | 0.7 | — |
| 塩化物イオン | mg/L | 200以下 | 平均値 | 6.9 | 9.6 | 7.3 | 7.7 | 9.5 | 8.4 | 8.0 | 10.4 | 9.2 | 10.2 | |
| | | | 最大値 | 9.6 | 15.5 | 10.6 | 11.3 | 14.6 | 16.1 | 12.6 | 15.9 | 15.6 | — | |
| | | | 最小値 | 4.7 | 5.3 | 4.8 | 5.6 | 5.3 | 4.6 | 4.3 | 5.5 | 4.4 | — | |
| 有機物(TOC) | mg/L | 3以下 | 平均値 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | |
| | | | 最大値 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | — |
| | | | 最小値 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | <0.3 | — |
| pH値 | — | 5.8以上 8.6以下 | 平均値 | 6.5 | 6.5 | 6.4 | 6.6 | 6.5 | 6.6 | 6.5 | 6.5 | 6.5 | 6.4 | |
| | | | 最大値 | 7.0 | 6.8 | 7.0 | 7.2 | 6.6 | 7.0 | 7.4 | 6.7 | 6.7 | — | |
| | | | 最小値 | 6.3 | 6.2 | 6.0 | 6.2 | 6.3 | 6.3 | 6.2 | 6.2 | 6.3 | — | |
| 臭気 | — | 異常でないこと | | 異常なし | |
| 色度 | 度 | 5以下 | 平均値 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | 0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | |
| | | | 最大値 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | 0.9 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | — |
| | | | 最小値 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | — |
| 濁度 | 度 | 2度以下 | 平均値 | <0.05 | <0.05 | 0.06 | 0.06 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | |
| | | | 最大値 | <0.05 | <0.05 | 0.06 | 0.14 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | — |
| | | | 最小値 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | <0.05 | — |
| 残留塩素 | mg/L | | 平均値 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | 0.04 | |
| | | | 最大値 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | — |
| | | | 最小値 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | — |

※：「水質基準に関する省令」（平成 15 年 5 月 30 日、厚労令 101）

表 3-1-12 水道水精密検査項目の経年変化 (第 5 水源)

| 水道水精密検査項目 | 単位 | 基準値※ | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 |
|-----------------------|------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| カドミウム及びその化合物 | mg/L | 0.003以下 | <0.0003 | <0.0003 | <0.0003 | <0.0003 | <0.0003 | <0.0003 | <0.0003 | <0.0003 | <0.0003 | <0.0003 |
| 水銀及びその化合物 | mg/L | 0.0005以下 | <0.00005 | <0.00005 | <0.00005 | <0.00005 | <0.00005 | <0.00005 | <0.00005 | <0.00005 | <0.00005 | <0.00005 |
| セレン及びその化合物 | mg/L | 0.01以下 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 |
| 鉛及びその化合物 | mg/L | 0.01以下 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 |
| ヒ素及びその化合物 | mg/L | 0.01以下 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 |
| 六価クロム化合物 | mg/L | 0.05以下 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 |
| 亜硝酸対窒素 | mg/L | 0.04以下 | <0.004 | <0.004 | <0.004 | <0.004 | <0.004 | <0.004 | <0.004 | <0.004 | <0.004 | <0.004 |
| シアン化物イオン及び塩化シアン | mg/L | 0.01以下 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 |
| フッ素及びその化合物 | mg/L | 0.8以下 | 0.12 | 0.13 | 0.12 | 0.12 | 0.10 | <0.08 | 0.11 | 0.08 | 0.12 | <0.08 |
| ホウ素及びその化合物 | mg/L | 1.0以下 | 0.02 | 0.03 | 0.02 | 0.03 | <0.02 | <0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 |
| 四塩化炭素 | mg/L | 0.002以下 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 |
| 1,4-ジオキササン | mg/L | 0.05以下 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 |
| シス及びトランス-1,2-ジクロロエチレン | mg/L | 0.04以下 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 |
| ジクロロメタン | mg/L | 0.02以下 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 |
| テトラクロロエチレン | mg/L | 0.01以下 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 |
| トリクロロエチレン | mg/L | 0.01以下 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 |
| ベンゼン | mg/L | 0.01以下 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 |
| 亜鉛及びその化合物 | mg/L | 1.0以下 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 |
| アルミニウム及びその化合物 | mg/L | 0.2以下 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 |
| 鉄及びその化合物 | mg/L | 0.3以下 | <0.03 | <0.03 | <0.03 | <0.03 | <0.03 | <0.03 | <0.03 | <0.03 | <0.03 | <0.03 |
| 銅及びその化合物 | mg/L | 1.0以下 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 |
| ナトリウム及びその化合物 | mg/L | 200以下 | 9.1 | 6.2 | 5.8 | 6.0 | 6.1 | 8.9 | 5.4 | 9.2 | 5.8 | 9.2 |
| マンガン及びその化合物 | mg/L | 0.05以下 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 |
| カルシウム、マグネシウム等 (硬度) | mg/L | 300以下 | 43 | 53 | 45 | 44 | 48 | 41 | 36 | 42 | 43 | 38 |
| 蒸発残留物 | mg/L | 500以下 | 92 | 110 | 87 | 96 | 93 | 100 | 75 | 130 | 84 | 92 |
| 陰イオン界面活性剤 | mg/L | 0.2以下 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 |
| ジエオスミン | mg/L | 0.0001以下 | <0.00001 | <0.00001 | <0.00001 | <0.00001 | <0.00001 | <0.00001 | <0.00001 | <0.00001 | <0.00001 | <0.00001 |
| 2-メチルイソボルネオール | mg/L | 0.00001以下 | <0.000001 | <0.000001 | <0.000001 | <0.000001 | <0.000001 | <0.000001 | <0.000001 | <0.000001 | <0.000001 | <0.000001 |
| 非イオン界面活性剤 | mg/L | 0.02以下 | <0.002 | <0.002 | <0.002 | <0.002 | <0.002 | <0.002 | <0.002 | <0.002 | <0.002 | <0.002 |
| フェノール類 | mg/L | 0.005以下 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 |

※: 「水質基準に関する省令」(平成15年5月30日、厚労令101)

2 悪 臭

2-1 調査概要

施設の供用に伴い、施設から発生する悪臭が周辺集落に影響を及ぼす恐れがあること及び、当該地域が、悪臭防止法第3条の規定に基づく工場その他の事業場における事業活動に伴って発生する悪臭原因物質の排出を規制する地域に指定されていることから、事業実施区域の風下側敷地境界において調査を実施しました。

2-2 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 3-2-1 に示したとおりです。

表 3-2-1 調査年月日及び調査内容

| 調査年月日 | 調査内容 |
|-----------|---------------|
| 令和2年1月29日 | 施設供用時における悪臭調査 |

2-3 調査地点

調査地点は、図 3-2-1 に示したとおり調査当日の風向を考慮し、事業実施区域敷地境界の風下側の1地点としました。

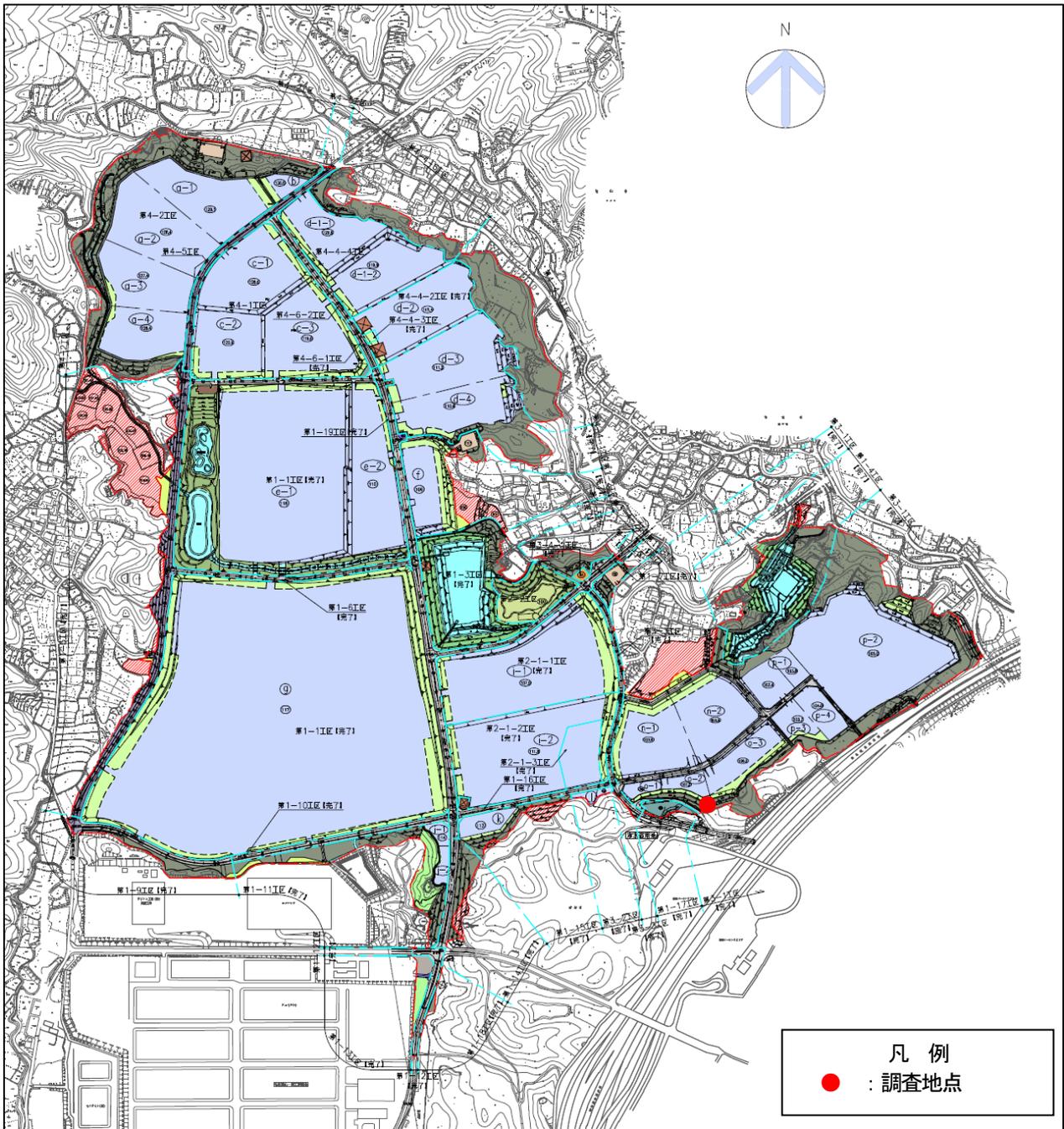


図3-2-1 悪臭調査地点

2-4 調査項目及び分析方法

調査項目及び分析方法は、表 3-2-2 に示したとおりです。

表 3-2-2 調査方法及び分析方法

| 項目 | 分析方法 | |
|--|---------------------|-----------|
| アンモニア | 昭和47年環境庁告示第9号別表第1 | |
| メチルメルカプタン 硫化水素 硫化メチル 二硫化メチル | 昭和47年環境庁告示第9号別表第2 | |
| トリメチルアミン | 昭和47年環境庁告示第9号別表第3 | |
| アセトアルデヒド プロピオンアルデヒド ノルマルブチルアルデヒド イソブチルアルデヒド ノルマルバレールアルデヒド イソバレールアルデヒド | 昭和47年環境庁告示第9号別表第4の1 | |
| イソブタノール | 昭和47年環境庁告示第9号別表第5 | |
| 酢酸エチル メチルイソブチルケトン | 昭和47年環境庁告示第9号別表第6の2 | |
| トルエン スチレン キシレン | 昭和47年環境庁告示第9号別表第7の2 | |
| プロピオン酸 ノルマル酪酸 ノルマル吉草酸 イソ吉草酸 | 昭和47年環境庁告示第9号別表第8 | |
| 気象 | 風向 | ビラム型風向風速計 |
| | 風速 | |
| | 気温 | アスマン通風乾湿計 |
| | 湿度 | |

2-5 調査結果

調査の結果、表 3-2-3 に示したとおり、全ての項目で定量下限値未満であり、敷地境界における規制基準を満足していました。

以上のことから、施設の供用に伴う周辺地域への悪臭の影響はみられませんでした。

調査時の状況は、資料編の写真 2 に示したとおりです。

表 3-2-3 調査結果

| 項 目 | 単 位 | 排出規制基準※ | 調査結果 | |
|---------------|-----|-----------|---------|------|
| アンモニア | ppm | 1 以下 | <0.1 | |
| メチルメルカプタン | ppm | 0.002 以下 | <0.0002 | |
| 硫化水素 | ppm | 0.02 以下 | <0.002 | |
| 硫化メチル | ppm | 0.01 以下 | <0.001 | |
| 二硫化メチル | ppm | 0.009 以下 | <0.0009 | |
| トリメチルアミン | ppm | 0.005 以下 | <0.0005 | |
| アセトアルデヒド | ppm | 0.05 以下 | <0.01 | |
| プロピオンアルデヒド | ppm | 0.05 以下 | <0.01 | |
| ノルマルブチルアルデヒド | ppm | 0.009 以下 | <0.002 | |
| イソブチルアルデヒド | ppm | 0.02 以下 | <0.002 | |
| ノルマルバレールアルデヒド | ppm | 0.009 以下 | <0.002 | |
| イソバレールアルデヒド | ppm | 0.003 以下 | <0.002 | |
| イソブタノール | ppm | 0.9 以下 | <0.09 | |
| 酢酸エチル | ppm | 3 以下 | <0.3 | |
| メチルイソブチルケトン | ppm | 1 以下 | <0.1 | |
| トルエン | ppm | 10 以下 | <1 | |
| スチレン | ppm | 0.4 以下 | <0.04 | |
| キシレン | ppm | 1 以下 | <0.1 | |
| プロピオン酸 | ppm | 0.03 以下 | <0.003 | |
| ノルマル酪酸 | ppm | 0.001 以下 | <0.0005 | |
| ノルマル吉草酸 | ppm | 0.0009 以下 | <0.0005 | |
| イソ吉草酸 | ppm | 0.001 以下 | <0.0005 | |
| 気 象 | 天 候 | — | — | 曇 |
| | 気 温 | ℃ | — | 13.3 |
| | 湿 度 | % | — | 59 |
| | 風 向 | — | — | WNW |
| | 風 速 | m/s | — | 1.7 |

※排出規制基準：悪臭防止法の規定に基づく規制地域の指定及び規制基準（平成 10 年 7 月 10 日三重県告示第 323 号）

2-6 まとめ

施設の供用に伴い、施設から発生する悪臭が周辺集落に及ぼす影響を把握するため、平成 15 年度から継続して事後調査を実施しており、平成 15 年度から今年度に至るまでの全ての年度において、全ての項目が排出規制基準を下回りました。

以上のことから、施設の供用に伴う周辺地域への悪臭の影響はみられませんでした。

第4章 事後調査を担当した者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在

| 区分 | 調査項目 | 調査機関の名称等 |
|------|----------|---|
| 事後調査 | 水質 悪臭 | 一般財団法人三重県環境保全事業団 理事長 高 沖 芳 寿 三重県津市河芸町上野 3258 番地 |

資料編

<調査状況写真>

亀山工区供用後に係る調査

1. 水 質
2. 悪 臭

<計量証明書（写）>

<調査状況写真>

